

## 6-4 本州南方沖の地震活動（1992年5～7月）

Seismic activity south off Honshu (May–July, 1992)

気象庁地震予知情報課

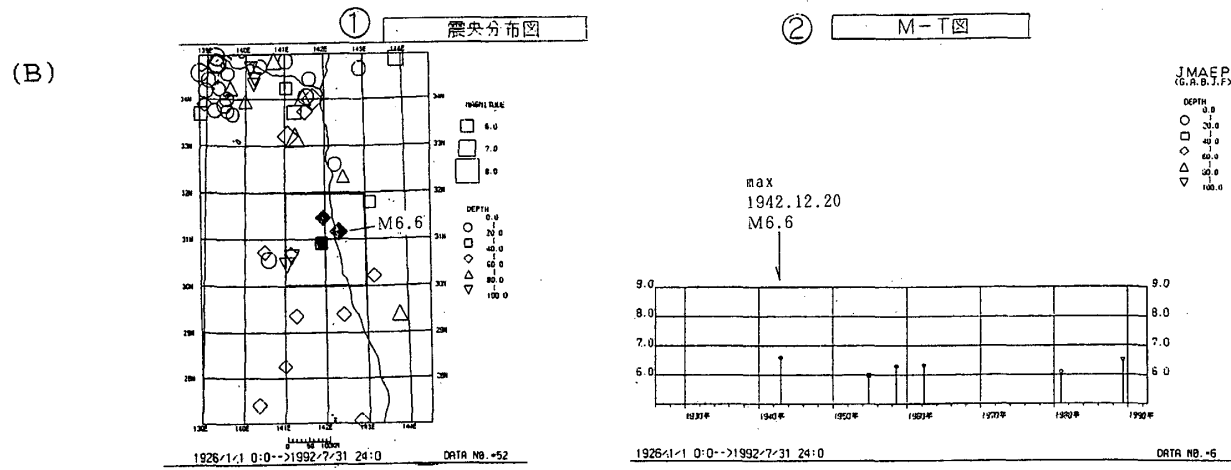
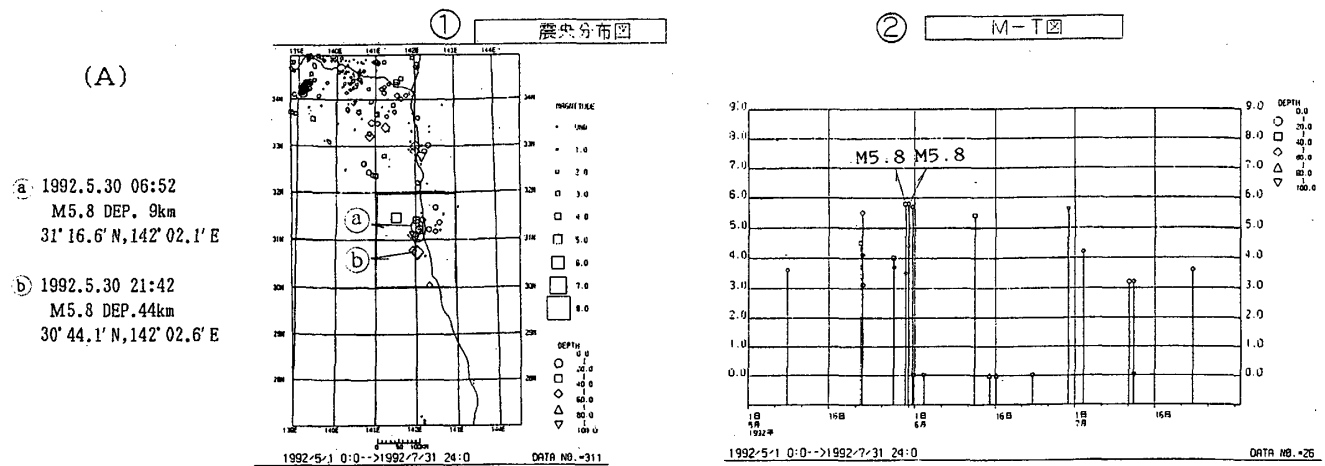
Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

1992年5月から7月にかけて鳥島東方沖の伊豆・小笠原海溝の西側斜面沿いで群発性の地震活動があった（第1図(A)）。この付近では5月21～22日にやや活発な活動があり、5個の震源が決定され最大のMは5.5だった。5月30～31日にはさらに活発な活動があり6個の震源が決定され、5月30日06時52分と21時42分頃、今回の活動中で最大のM5.8（深さは9kmと44km）の地震および5月31日15時20分頃、M5.7（深さは44km）の同規模の地震3個が発生した。その後も活動が続き、6月12日にM5.4、6月29日にM5.6の地震が発生し、7月中に活動はほぼ終息した。

1926年以降、震央分布図の矩形の範囲内で今回の活動域に近い地震（ $M \geq 6.0$ ）は1942年のM6.6、1954年のM6.0、1958年のM6.3の地震であり、その後顕著な活動はなかった（第1図(B)）。最近10年間の本州南方沖の地震活動（ $M \geq 4.0$ ）をみると（第2図）、伊豆・小笠原海溝沿いの太平洋プレートのもぐり込みに伴う浅い地震の活動は今回の活動域以北でその南より活発である。またフィリピン海プレート内の浅い地震もこの付近の緯度線より北で活発となっている。

1992年6月2日03時29分頃、M5.8（深さ136km）、6月30日01時04分頃、M6.0（深さ522km）の深発地震が父島近海で発生した（第3図）。前者はやや浅い深発地震でこの付近でM5を越える地震は1987年12月12日のM6.6（深さ197.7km）以来である。

1984年3月6日M7.9（深さ452km）の地震が鳥島の南西沖で発生したが、その後この地震の北側及び南側の場所での深発地震活動が高まった。北側の活動は1988年頃に収まった。南側の活動は1986年後半から活動レベルが低下していたが、1990年頃からやや活発になり、後者のM6.0の地震はこの場所で発生した。本巻別項参照。

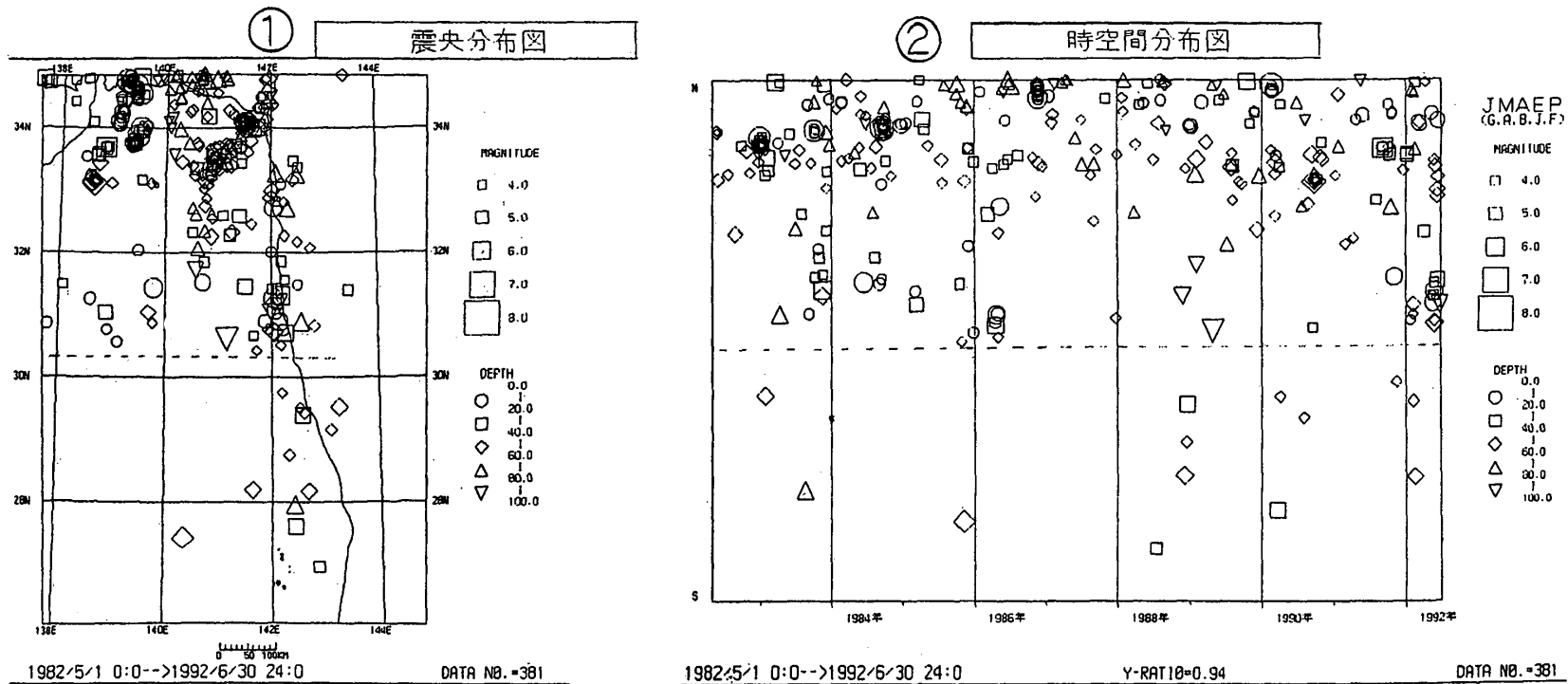


暫定 : 1992年6月→

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

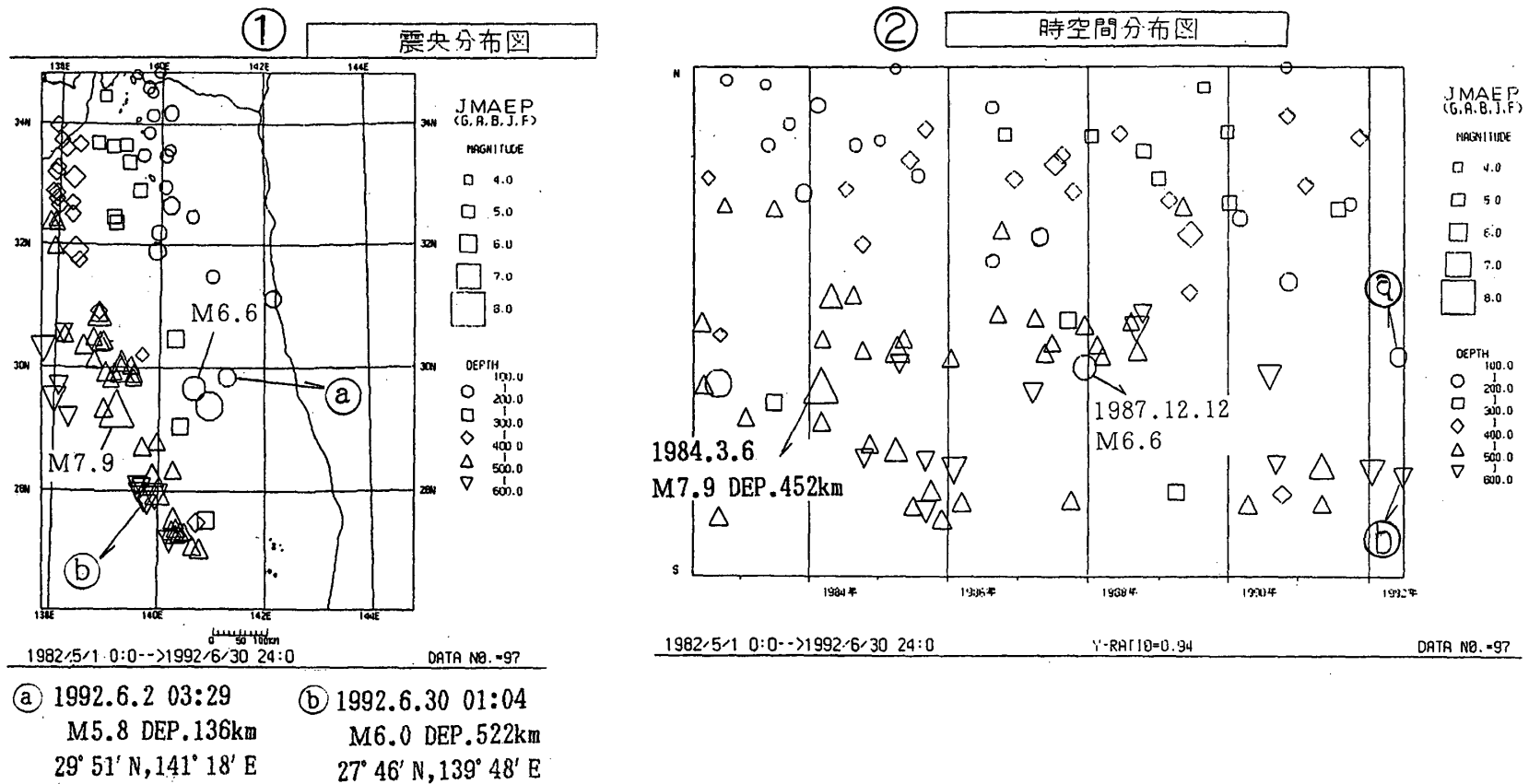
第1図 鳥島東方沖の地震活動 (深さ100km以浅)  
 (A): 1992年5月1日~7月31日, (B): 1926年1月1日~1992年7月31日;  $M \geq 6.0$   
 ①: 震央分布, ②: M-T図 (①の矩形内)

Fig. 1 Seismic activity east off Torishima Island ( $0 \leq \text{depth} \leq 100 \text{ km}$ ).  
 (A): May 1 – July 31, 1992, (B): January 1, 1926 – July 31, 1992;  $M \geq 6.0$ .  
 ①: Epicentral distribution, ②: M-T diagram for the rectangular region in ①.



第2図 本州南方沖の地震活動 ( $M \geq 4.0$ ; 深さ100km以浅) (1982年5月1日~1992年6月30日)  
 ①: 震央分布, ②: 時空間分布図

Fig. 2 Seismic activity south off Honshu ( $M \geq 4.0$ ;  $0 \leq \text{depth} \leq 100 \text{ km}$ )  
 (May 1, 1982 – June 30, 1992).  
 ①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot.



第3図 父島近海の地震活動 ( $M \geq 4.0$ ; 深さ100~600km)  
 ①: 震央分布, ②: 時空間分布図

Fig. 3 Seismic activity near Chichijima Island ( $M \geq 4.0$ ;  $100 \leq \text{depth} \leq 600$  km).  
 ①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot.